

長期ビジョン特別委員会報告資料

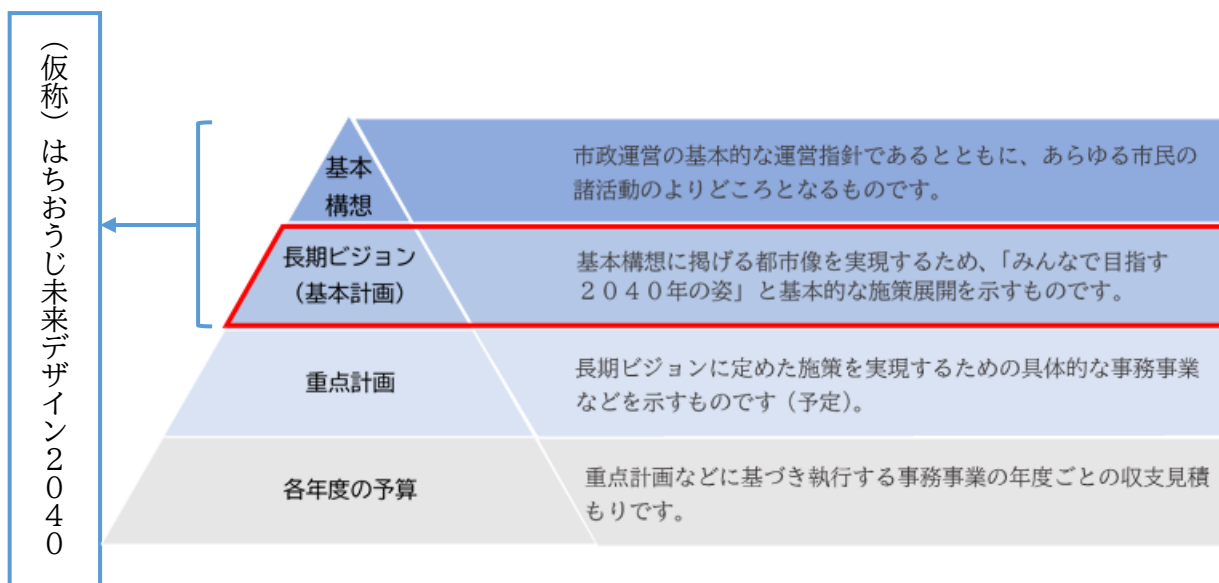
1	「長期ビジョン」の概要.....	2
2	みんなで目指す2040年の姿.....	6
3	原動力	22
4	施策横断的なテーマ.....	23
5	重点テーマ及び取組方針.....	24

1 「長期ビジョン」の概要

(1) 位置付け

「長期ビジョン」（基本計画）は、基本構想に掲げる都市像を実現するため、社会環境の変化や意見聴取の結果などを踏まえ、「みんなで目指す2040年の姿」と基本的な施策展開を示すものです。

「基本構想」と「長期ビジョン」を「(仮称) はちおうじ未来デザイン2040」として取りまとめます。



(2) 計画期間

2040年を展望した「長期ビジョン」の計画期間は、令和5年度(2023年度)から令和12年度(2030年度)までの8か年です。

(3) 構成

「長期ビジョン」は、「みんなで目指す2040年の姿」、「原動力」、「施策横断的なテーマ」、「重点テーマ及び取組方針」、「施策」※などで構成します。

素案では、「みんなで目指す2040年の姿」、「原動力」、「施策横断的なテーマ」、「重点テーマ及び取組方針」を記載しています。

ア みんなで目指す2040年の姿

“市民の暮らしや理想の状態”を表現した2040年までに実現を目指す11の姿です。

イ 原動力

「みんなで目指す2040年の姿」及び「都市像」の実現に向けて、これまでの柱である「人とひととの支えあい、つながり」と市民・行政の互いの役割と責任ある行動による「協働」を継承しつつ、より発展的に捉えた内容であり、取組を加速化させていくものです。

ウ 施策横断的なテーマ

全施策で共通して取り組む内容です。

エ 重点テーマ及び取組方針

「みんなで目指す2040年の姿」の実現に向け、令和12年度（2030年度）までに重点的に取り組む内容です。

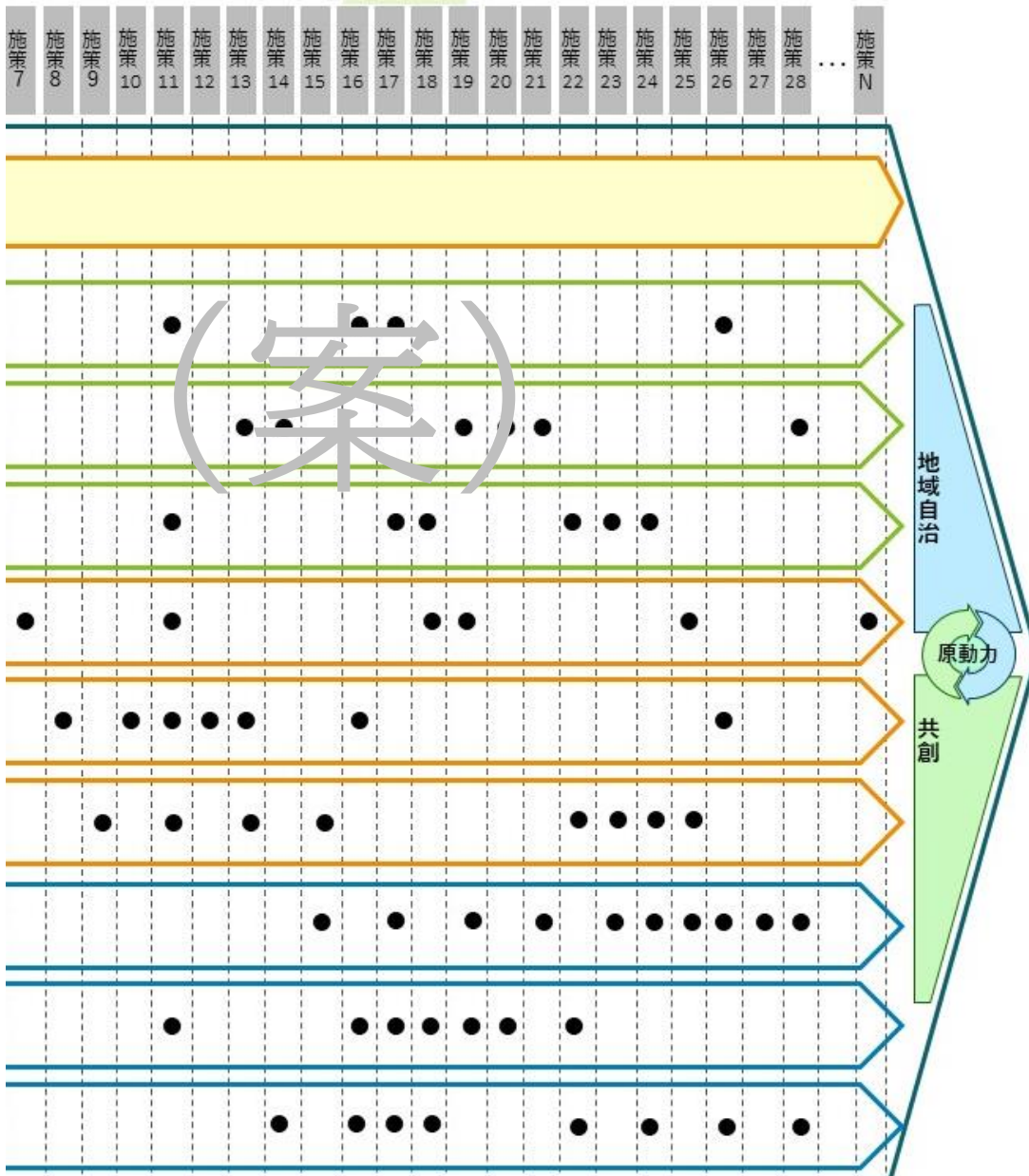
オ 施策

「都市像」を実現するための取組です。

※ 施策については、令和12年度（2030年度）に向けて今後策定していきます。

(4) 計画体系図





2 みんなで目指す2040年の姿

2040年までの目標として11の「みんなで目指す2040年の姿」を定めました。

一人ひとりの市民が未来のことを考え、行動していく中では、明確化した目標を共有することが大切であるため、多くの市民の声を聞き、“市民の暮らしや理想の状態”で表現しています。市民や大学、企業などと目標を共有し、協働のまちづくりを進めることで、「都市像」を実現していきます。

<みんなで目指す2040年の姿一覧>

- (1) 人とひと、人と地域など多様なつながりを実感し、ほっとする住みよいまちをみんなでつくっている。
- (2) 住み慣れた地域で元気に年を重ね、人生100年時代を生き活きと暮らしている。
- (3) それぞれの個性を互いに認めあい、それぞれが望むフィールドで活躍している。
- (4) ワクワク感を持って、「やりたい！」に挑戦でき、笑顔で自分のみちを歩んでいる。
- (5) 子どもの幸せをみんなでわかちあい、安心と喜びを持って子育てしている。
- (6) 一人ひとりが高い防災意識を持ち、互いに支えあいながら、強さとしなやかさを持ったまちで安心して暮らしている。
- (7) 行きたいときに、行きたいところへ簡単にアクセスでき、便利で快適な生活を送っている。
- (8) 地域産業のイノベーションによって、より便利で豊かな生活を享受して暮らしている。
- (9) お気に入りの「ふるさと八王子」の魅力を発信し、世界が「Hachioji」の魅力を体感している。
- (10) 地球規模で考え、地域で実践し、環境負荷ゼロのまちを目指しながら暮らしている。
- (11) 自然と調和したまちで、みどりあふれる美しい空間を満喫しながら心豊かに暮らしている。

次ページから、それぞれの「みんなで目指す2040年の姿」について、以下の項目を記載しています。

<都市像>

「みんなで目指す2040年の姿」は、基本構想に掲げる全ての「都市像」の実現につながるものです。ここでは、「みんなで目指す2040年の姿」の実現が、最も貢献する「都市像」を濃色で示しています。

<背景>

「みんなで目指す2040年の姿」を掲げる際に意識した社会背景

<実現に向けた方向性>

「みんなで目指す2040年の姿」の実現に向けた、市の2040年までの取り組みの方向性

<2040年までに予測されている科学技術>

「みんなで目指す2040年の姿」に関連する2040年までに予測されている科学技術（出典：文部科学省「令和2年版科学技術白書」。下図は、同白書に掲載された「2040年社会のイメージ『人間性の再興・再考による柔軟な社会』」のイラスト）



出典：文部科学省「令和2年版科学技術白書」

(1) 人とひと、人と地域など多様なつながりを実感し、ほっとする住みよいまちをみんなで作っている。

<都市像>

①みんなで担う公共と協働のまち
②健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち
③生き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち
④安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち
⑤魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち
⑥一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち

<背景>

- ・人口減少・少子高齢化の進行による担い手不足などに起因した地域活力の低下
- ・高齢者世帯や単独世帯などの増加
- ・つながりに対する考え方やライフスタイルの多様化による地域コミュニティの希薄化などの地域社会の変化

<実現に向けた方向性>

- ・地域共生社会の実現に向けた持続可能な住民主体のまちづくりの推進
- ・社会的孤立防止に資する関係構築（実感できるつながりに向けた交流の創出）
 - ・交流の創出に向けた目的に囚われない居場所づくりやつながる機会の創出
 - ・バーチャルを活用したつながりのきっかけづくりや交流の創出
- ・義務感のないゆるやかなつながりから始まるコミュニティの活性化

2040年までに予測されている科学技術（出典：文部科学省「令和2年版科学技術白書」）

- ・共有できる身体
遠隔地の人やロボットを自在に操れる身体共有技術

(2) 住み慣れた地域で元気に年を重ね、人生100年時代を生き生きと暮らしている。

<都市像>

①みんなで担う公共と協働のまち
②健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち
③生き生きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち
④安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち
⑤魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち
⑥一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち

<背景>

- ・ 人生100年時代の到来による健康寿命延伸の必要性の高まり
- ・ 高齢者の増加、生産年齢人口の減少による労働力不足の深刻化や社会保障費（年金・医療費など）の増大
- ・ 高齢者世帯や単独世帯などの増加
- ・ 認知症高齢者、要支援認定者・要介護認定者の増加
- ・ 8050（9060）問題¹、老老介護などの社会課題

<実現に向けた方向性>

- ・ 地域共生社会に向けた人とひととのつながりと笑顔で支えあえる関係づくり
- ・ 地域包括ケアシステム²の推進による一人ひとりが「望む生活」の実現
- ・ セルフケア能力の向上に向けた幼少期からの切れ目ない健康づくりの推進
- ・ 自然に健康でいられるきっかけ・環境・都市づくり
- ・ 社会参加促進と地域資源の充実による生きがいづくり
- ・ 地域医療体制の強化

¹ 80歳代の高齢の親と、50歳代の子どもの組合せによる、社会的孤立などの問題。背景に、家族や本人の病気、親の介護、離職（リストラ）、経済的困窮、人間関係の孤立など複合的課題を抱えている。親子の高齢化・長期化により、9060問題へと移行し始めている。

² 可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい、健康づくり、予防、見守り、介護、生活支援、医療が一体的に提供される地域の包括的な支援・サービス提供体制。

2040年までに予測されている科学技術（出典：文部科学省「令和2年版科学技術白書」）

- ・超軽量感染症センサー

手のひらサイズで、航空機内などどこへでも持ち運ぶことができ、迅速に感染症への感染の有無などを検知・判定できる超軽量センサー

- ・遠隔治療

遠隔で、認知症などの治療や介護が可能になる超分散ホスピタルシステム

- ・心身のサポート

人の心身の状態を分析しすぐにアドバイスしてくれる超小型デバイス

- ・早期診断

血液分析によるがんや認知症の早期診断

- ・体内監視デバイス

薬物動態・がんマーカー・感染・血液成分をモニタリングするウェアデバイス

(3) それぞれの個性を互いに認めあい、それぞれが望むフィールドで活躍している。

<都市像>

①みんなで担う公共と協働のまち
②健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち
③生き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち
④安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち
⑤魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち
⑥一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち

<背景>

- ・ライフスタイルや家族形態の変化による価値観の多様化
- ・外国人人口の増加
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催（多様性と調和への期待）

<実現に向けた方向性>

- ・「知る」から始まる心のバリアフリー推進によるノーマライゼーション³社会の実現
- ・誰もが安心して暮らせるユニバーサルデザイン⁴のまちづくり

2040年までに予測されている科学技術（出典：文部科学省「令和2年版科学技術白書」）

- ・即時自動翻訳
あらゆる言語をリアルタイムで翻訳・通訳できるシステム

³ 障害者など社会的に不利益を受けやすい人々が、社会の中で他の人々と同じように生活し、活動することが社会の本来あるべき姿（ノーマルな姿）であるという考え方のこと。

⁴ 年齢、性別、国籍、個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人が利用できるよう生活環境その他の環境を作り上げること。

(4) ワクワク感を持って、「やりたい！」に挑戦でき、笑顔で自分のみちを歩んでいる。

<都市像>

①みんなで担う公共と協働のまち
②健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち
③生き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち
④安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち
⑤魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち
⑥一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち

<背景>

- ・ 予測困難な時代における教育で育むべき資質・能力の変化
- ・ 人生100年時代の到来による生涯学習・リカレント教育の必要性の高まり
- ・ 科学技術の進展や新型コロナウイルス感染症による働き方・学び方の変化
- ・ 終身雇用制度からの転換や副業・兼業の増加などの雇用のあり方の変化

<実現に向けた方向性>

- ・ 社会の変化を見据えた子どもたちの「生きる力」の育成
- ・ 生涯学習の推進によるつながり・生きがいの創出と学習成果の活用
- ・ キャリア形成・生涯現役に資するリカレント教育の推進
- ・ 自然体験の充実及びデジタル技術や大学などを活用した学習機会の拡大
- ・ 働き方を選択できる環境づくりの推進
- ・ 個人の知識・能力を地域に還元する仕組みづくり

2040年までに予測されている科学技術（出典：文部科学省「令和2年版科学技術白書」）

- ・ 教育のデジタル化
誰でも、いつでも、どこでも、個人の能力・興味に合わせた学びに対応できるデジタル環境
- ・ 体験の共有
個人の心理状態や感覚・味覚などを記録し、共有できる体験伝達メディア

(5) 子どもの幸せをみんなでわかちあい、安心と喜びを持って子育てしている。

<都市像>

①みんなで担う公共と協働のまち
②健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち
③生き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち
④安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち
⑤魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち
⑥一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち

<背景>

- ・ 少子化の進行
- ・ 核家族世帯の増加
- ・ 障害児や外国人家庭など配慮が必要な子ども・家庭の顕在化
- ・ 子どもの貧困、低所得世帯やひとり親世帯の困窮、児童虐待、教育格差、ダブルケア⁵、ヤングケアラー⁶などの社会課題

<実現に向けた方向性>

- ・ 地域や子育て世代同士のつながりの醸成による負担感・孤立感の軽減
- ・ 切れ目のない多面的な子育て支援の強化
- ・ 働き方を選択できる環境づくりの推進

⁵ 晩婚化と出産年齢の高齢化により、育児と介護に同時に携わる際の負担などの問題。

⁶ 一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども。

(6) 一人ひとりが高い防災意識を持ち、互いに支えあいながら、強さとしなやかさを持ったまちで安心して暮らしている。

<都市像>

①みんなで担う公共と協働のまち
②健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち
③生き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち
④安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち
⑤魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち
⑥一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち

<背景>

- ・首都直下地震などの発生リスクや気候変動に伴う自然災害の頻発化・激甚化
- ・人口減少・少子高齢化の進行や地域コミュニティの希薄化による自助・互助・共助機能の低下
- ・高齢者をはじめとする災害弱者（災害時要援護者）への対応の必要性の高まり

<実現に向けた方向性>

- ・先端技術やグリーンインフラ⁷を活用したレジリエント⁸なまちづくりの推進
- ・災害履歴やリスクを踏まえた土地利用や施設整備の推進
- ・減災に資するみどりの適正管理の促進
- ・自助・互助・共助を支える防災情報伝達の強化
- ・つながりの広がりや多様な連携による地域防災力の強化

2040年までに予測されている科学技術（出典：文部科学省「令和2年版科学技術白書」）

- ・自然災害予測技術
人工衛星を活用したリアルタイムの災害リスク評価システム
- ・即時災害予測
豪雨・活火山・地震などの自然災害の発生時期、被害の予測技術

⁷ 社会資本整備や土地利用などのハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制など）を活用すること。

⁸ 強靭さ・復興力。（ここでは「災害に対する強靭さ、しなやかに変化に対応できる持続可能性」として使用）

(7) 行きたいときに、行きたいところへ簡単にアクセスでき、便利で快適な生活を送っている。

<都市像>

①みんなで担う公共と協働のまち
②健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち
③生き生きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち
④安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち
⑤魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち
⑥一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち

<背景>

- ・人口減少、少子高齢化の進行による都市のスポンジ化及び公共交通サービスの縮小（交通空白地域の増加）
- ・環境にやさしい低炭素な交通への展開気運の高まり
- ・カーシェアリングや駐車場マッチングサービスの広がり
- ・道路・橋梁の老朽化
- ・自動運転車などの先端技術の進展

<実現に向けた方向性>

- ・ライフスタイル、地域特性に応じた都市の集約化・コンパクト化の推進
- ・誰にでも使いやすい持続可能な公共交通システムの構築及び新たな移動手段の戦略的活用
- ・中心市街地などの回遊性及び安心・快適な歩行空間の確保
- ・道路を活用した賑わい溢れるコミュニティ空間の創出
- ・自動運転やMaaS⁹など先端技術の活用に向けたスマートシティの推進

⁹ マース。Mobility as a Service の略で、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせる検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの。

2040年までに予測されている科学技術（出典：文部科学省「令和2年版科学技術白書」）

- ・ 安心な道案内

 - 視覚障がい者や高齢者が安心して自由に移動できるナビゲーションシステム

- ・ どこでも自動運転

 - 場所を限定せず操作できる自動運転システム

- ・ 都市部有人ドローン

 - 都市部で人を運べる「空飛ぶ車・ドローン」

(8) 地域産業のイノベーションによって、より便利で豊かな生活を享受して暮らしている。

<都市像>

①みんなで担う公共と協働のまち
②健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち
③生き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち
④安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち
⑤魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち
⑥一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち

<背景>

- ・人口減少・少子高齢化の進行による生産年齢人口の減少
- ・東京都立多摩産業交流センターやリニア中央新幹線による更なる人材交流の活発化
- ・圏央道をはじめとする広域交通の進捗
- ・インターネット上での電子商取引の普及、Society 5.0¹⁰時代の到来、第4次産業革命¹¹の進展
- ・人口減少や少子高齢化を背景とした商業や交通網の変化などによる買い物難民の増加
- ・働き方の変化による居住に対する選択肢の増加
- ・国が「2050年カーボンニュートラル¹²に伴うグリーン成長戦略¹³」を策定

¹⁰ サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもの。

¹¹ 18世紀末以降の水力や蒸気機関による工場の機械化である第1次産業革命、20世紀初頭の分業に基づく電力を用いた大量生産である第2次産業革命、1970年代初頭からの電子工学や情報技術を用いた一層のオートメーション化である第3次産業革命に続く、IoT、ビッグデータ、AIのようないくつかのコアとなる技術革新を指す。

¹² 二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。

¹³ 国が掲げる「2050年カーボンニュートラル」への挑戦を、「経済と環境の好循環」につなげるための産業政策

<実現に向けた方向性>

- ・企業の競争力を高める産学官の共創によるイノベーションエコシステム¹⁴の構築
- ・女性、高齢者、障害者、外国人など多様な人材を活かす戦略的な人材活用を推進（ダイバーシティ経営¹⁵）
- ・テレワーク・ワーケーションなど新たな働き方への対応
- ・社会課題・地域課題解決のための新たなビジネスの創出
- ・既存企業の持続可能性の確保に向けた新しい価値の創出、事業継承、生産性向上の推進
- ・企業ニーズを踏まえた産業系土地利用誘導（受け皿づくり）の推進

2040年までに予測されている科学技術（出典：文部科学省「令和2年版科学技術白書」）

- ・職人技をマスターするAI
匠技能の計測とモデリングを通じて職人の技と経験を習得できるAIシステム
- ・即時自動翻訳
あらゆる言語をリアルタイムで翻訳・通訳できるシステム

¹⁴ 行政、大学、研究機関、企業、金融機関などの様々なプレーヤーが相互に関与し、絶え間なくイノベーションが創出される、生態系システムのような環境・状態。

¹⁵ 多様な人材を活かし、その能力が最大限発揮できる機会を提供することで、イノベーションを生み出し、価値創造につなげている経営

(9) お気に入りの「ふるさと八王子」の魅力を発信し、世界が「Hachioji」の魅力を体感している。

<都市像>

①みんなで担う公共と協働のまち
②健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち
③生き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち
④安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち
⑤魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち
⑥一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち

<背景>

- ・高尾山をはじめとする豊かな自然、長い歴史や文化、伝統産業など多岐にわたる観光資源を有する地域特性
- ・資源回収など政策分野における先導的な取組の実績
- ・人口減少・高齢化による地域づくりの担い手不足に対する交流人口・関係人口への期待の高まり
- ・桑都・八王子の歴史文化を高尾山との結びつきで物語るストーリー「霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」の日本遺産認定
- ・Ma a S⁹の概念の登場や観光に活用できるデジタル技術の進展

<実現に向けた方向性>

- ・交流人口・関係人口の増加に向けたターゲティングによる観光・MICE¹⁶の推進
- ・観光資源の洗練化及び潜在的な観光資源の発掘
- ・歴史・文化などの魅力の発信による愛着や誇りの醸成
- ・世界を魅了するシティプロモーションの推進
- ・八王子のファンを巻き込んだ情報発信の促進

2040年までに予測されている科学技術（出典：文部科学省「令和2年版科学技術白書」）

- ・体験を共有
個人の状態や感覚・味覚などを記録し、共有できる体験伝達メディア
- ・即時自動翻訳
あらゆる言語をリアルタイムで翻訳・通訳できるシステム

¹⁶ 企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。

(10) 地球規模で考え、地域で実践し、環境負荷ゼロのまちを目指しながら暮らしている。

<都市像>

①みんなで担う公共と協働のまち
②健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち
③生き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち
④安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち
⑤魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち
⑥一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち

<背景>

- ・地球温暖化による気候変動リスクの高まり
- ・SDGsの浸透による環境問題への意識の高まり
- ・国が令和32年（2050年）までにカーボンニュートラル¹²を目指すことを宣言

<実現に向けた方向性>

- ・再生可能エネルギーの導入推進・普及
- ・グリーンイノベーション¹⁷の積極的な導入
- ・環境配慮行動の定着に向けた環境教育・環境学習の推進及び事業者支援
- ・3R¹⁸の推進による循環型社会の実現
- ・都市の集約化・コンパクト化によるエネルギーの効率化
- ・温室効果ガスの吸収源としてのみどりの保全・創出

2040年までに予測されている科学技術（出典：文部科学省「令和2年版科学技術白書」）

- ・エコな水素製造
太陽光・風力発電の余剰電力を用いた水素製造
- ・人工光合成
エネルギー効率20%以上の人工光合成技術

¹⁷ 革新的な環境・エネルギー技術の研究開発の加速化・新技術の創出を行い、その研究開発成果の実利用・普及を強かに推進するために社会システムの転換を図り、これを通じて産業・社会活動の効率化、新産業の創造や国民生活の向上に資するもの。

¹⁸ 廃棄物などのリデュース（Reduce：廃棄物の発生自体を抑制すること【発生抑制】）、リユース（Reuse：使い捨てせず、繰り返し使用すること【再使用】）、リサイクル（Recycle：廃棄物などを再生利用すること【再生利用】）の3つの頭文字をとった呼称。

(11) 自然と調和したまちで、みどりあふれる美しい空間を満喫しながら心豊かに暮らしている。

<都市像>

①みんなで担う公共と協働のまち
②健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち
③生き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち
④安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち
⑤魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち
⑥一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち

<背景>

- ・高尾山をはじめとした豊かな自然（森林、里山、河川など）のある地域特性
- ・市街化によるみどりの減少
- ・担い手不足などによる農林業の衰退や生産緑地の減少
- ・自然豊かで良好な環境を求める価値観の高まり

<実現に向けた方向性>

- ・水循環の再生や防災など、様々な分野におけるグリーンインフラ⁷の活用
- ・森林資源や緑地の保全と利用促進による森林等の循環の強化
- ・農業関連施策による農地の保全と活用
- ・持続可能な都市農業による地産地消の推進
- ・学びや憩い、活動の場としてのみどりの活用

2040年までに予測されている科学技術（出典：文部科学省「令和2年版科学技術白書」）

・無人・精密農業

I o Tを利用した精密農業の普及

3 原動力

本市では、「八王子ビジョン2022」に基づき、「人とひととの支えあい、つながり」と市民・行政の互いの役割と責任ある行動による「協働」を柱として市政運営を行ってきました。その中では、本市が誇る市民力・地域力に支えられ新たなステージを迎える「市民との協働」を掲げて、地域コミュニティ活動の支援や、市民参加しやすい環境整備の推進、様々な市民や団体の特性を活かした市民協働の推進など市民自治の推進に取り組んできました。

今後の社会環境の変化を踏まえると、今まで以上に様々な主体と一丸となり対応していく必要があるため、「長期ビジョン」では、「みんなで目指す2040年の姿」及び「都市像」の実現に向けて、これまでの柱を継承しつつ、より発展的に捉えた内容を「原動力」として掲げ、取組を加速化させていきます。

(1) 地域自治

子ども・子育て支援、防災・減災対策、防犯対策など、地域課題の中心はより住民に身近なものへと変わってきているため、地域の実情に合わせた対応がこれまで以上に必要です。地域のことを地域自らが決め、それを実行する「地域自治」の推進により、地域課題の解決を図っていきます。

(2) 共創

生産年齢人口の減少により働き手不足による医療・介護問題や公共交通ネットワークの縮小、消費市場の規模縮小による地域経済の衰退、さらには気候変動とともに深刻化する災害対応など、社会的課題・地域課題は多様化・複合化していくことが予想されます。

これらの課題に対応していくためには、行政のリソースだけでは、限界が見られるようになっており、多様な主体が持つ特性を紡ぎ、互いの知恵とノウハウを共有し、新たな価値を創造する「共創」を基盤として施策を展開していくことが重要となります。民間事業者、大学等との連携による「共創」により、社会的課題・地域課題の解決を図っていきます。

4 施策横断的なテーマ

全施策で共通して取り組む内容を定めました。

(1) デジタル・トランスフォーメーション（DX）

本市におけるデジタル・トランスフォーメーション（DX）とは、デジタル技術やデータを活用して、市民視点に立って行政サービスを変革し、新たな価値を創出するものです。

本市ではこれまでも、業務効率化を図るための業務プロセスのデジタル化や一部手続のオンライン化などに取り組んできましたが、DXにおいては、デジタル技術やデータを活用して、市民視点で業務を検証・見直し、行政サービスのあり方を再構築することが求められています。

単に手続をオンライン化するだけでなく、申請手続き自体を不要とし、該当する市民に漏れなくサービスを提供するように仕組みを抜本的に変えていくなど、誰もが分かりやすく使いやすい、ニーズにマッチした質の高いサービスを実現し、市民の生活をより豊かにするため、全施策横断的にDXに取り組みます。

(2) カーボンニュートラル

令和2年（2020年）10月、国は令和32年（2050年）までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」※ から、植林、森林管理などによる「吸収量」※ を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。カーボンニュートラルの達成のためには、温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化をする必要があります。

本市は、森林資源や水資源、里山など豊かなみどりを有しています。それらの活用はもとより、あらゆる分野での取組を市民・事業者とともに進めていくため、全施策において令和32年（2050年）のカーボンニュートラル実現に向けて取り組めます。

※ 人為的なもの

5 重点テーマ及び取組方針

「みんなで目指す2040年の姿」の実現に向け、令和12年度（2030年度）までに重点的に取り組む内容を定めました。

(1) 未来の主役づくり

～テーマに込めた思い～

未来を担うのは子どもから高齢者までの一人ひとりの市民です。一人ひとりが主役であるまちの実現には、健康で周囲の支えあいのもと、つながりによる安心の中で自分のみちをあるけるようになることに留まらず、個々のできる範囲での社会参加を通じて支える側になっていくことで、心の豊かさや生きがいを得ていくことが重要です。

一人ひとりが主役であるまちの実現により、個人の成長だけでなく、地域の未来にもつながる好循環を生み出し、地域コミュニティの活性化、地域や八王子への愛着や誇りの醸成につなげていきます。

【取組方針】

- ア 地域全体で子育てを支えるとともに、切れ目のない質の高い教育を通して、未来を担う子どもの「生きる力」を育みます。

- イ 多様な学びの機会を創出し、誰もが働きやすく、社会参加できる環境を整えることで、一人ひとりの「自己実現力」を育みます。

- ウ 自然に健康でいられる環境と地域医療体制を整備するとともに、セルフケア能力を高める支援を通して、一人ひとりの健康を育みます。

(2) 未来へのつながりづくり

～テーマに込めた思い～

現在、地域課題は多様化・複合化してきており、解決のためには今まで以上にきめ細かい対応が求められることから、地域共生社会実現に向けた地域づくりの重要性はさらに高まっています。また、人口減少を想定した中では、市民の郷土愛を育み、本市に住み続けてもらうことに加え、本市に魅力を感じ、地域の人々と関わり地域のために動こうとする関係人口や、本市を訪問先や居住地として選択をする交流人口を増加させていく必要があります。一方で、社会的な課題への対応を捉えた場合には、様々な関係機関との連携を強化・創出し、シナジー効果を最大限高めていくことが重要です。

地域の魅力を活かして進める地域づくりの推進により、多様化・複合化した地域課題の解決を図るとともに、未来へつなぐ地域の活性化を図ります。

【取組方針】

ア 多様かつ複合化した地域課題の解決に向け、市民力・地域力をもとにして、地域が主体的に支えあえる「地域づくり」を推進します。

イ 日本遺産をきっかけとして、桑都文化を磨き上げ、地域活動や地域の産業・経済の活性化を図るほか、豊富な資源を活用した地域主体の観光まちづくりを推進します。

ウ 豊かな産業資源の優位性や学園都市としての知の集積を活かし、産学官民連携で革新的なイノベーションによる価値創造を目指します。

(3) 未来に続く都市づくり

～テーマに込めた思い～

本市は、豊かな自然環境、地理的優位性と交通の利便性に恵まれ、大学や産業が集積する首都圏西部の中核都市として発展を続けてきました。

一方で、東日本大震災を教訓とする防災意識の高まりや人口減少・少子高齢化の進行、地球規模での環境問題の深刻化など、社会情勢や本市を取り巻く都市環境は、大きな転換期に直面しています。

市民の安全・安心につながる強靱なまちづくりを推進するとともに、都市の快適性の向上、地域経済発展に資する産業振興、環境への配慮・自然との調和に向け、ハードとソフトの両面からこれまで以上に注力することで、次世代に引き継いでいくことのできる、未来に続く持続可能な都市を形成していきます。

【取組方針】

ア 自助・互助・共助の連携強化を図るとともに、自然や先端技術を活用し、災害の脅威から市民の命を守る強靱なまちづくりを推進します。

イ にぎわいと活力を生み出すため、新産業分野の事業創出や既存産業への支援を行うほか、公共交通の充実とともにウォークアブルなまちづくりを推進します。

ウ 自然環境と都市機能が調和した都市の実現に向け、再生可能エネルギーの普及促進など持続力を生み出す取組を推進します。